

卓球部 活動報告

東京都立工業高等学校生徒スポーツ大会 第24回卓球競技大会 シングルス部

準優勝 1-A 相多 雄仁
ベスト8 2-B 大栗 晴弥

2月10日(土)に引き続き、2月11日(日)に工業大会のシングルス部に出場しました。上記の通り、今大会で相多選手(機械科1年)と大栗選手(機械科2年)の2名が見事入賞することができました。2名共にベスト16までは順当に勝ち進んでいき、ベスト8決定戦から見ごたえのある試合をしてくださいました。

大栗選手は、ベスト8決定戦で田無工科高校の選手との対戦となりました。様々な回転の変化を利用しながら有利な展開を作り、チャンスボールを逃すことなく攻め切って完勝しました。ベスト4決定戦では中野工科高校の選手との対戦となりました。カット(あえて台から下がり、どんなボールにも下回転をかける技術)を多用する選手で、少しやりにくさがあったのか、簡単にはポイントを取ることができず、勝負は最終セットまでもつれ込みました。最後は大栗選手が守備に回る展開となり、一步及ばずに2-3で敗退し、ベスト8という結果になりました。惜しかった試合だけに悔しさもありますが、今後の成長に期待できる試合内容だったと思います。

相多選手はベスト8決定戦で橘高校の選手と対戦となり、最初は相手に先手を取られた攻撃を防ぎきれず、自分の有利な展開を作ることができませんでした。どうしても守備が多くなってしまい、最終セットまでもつれ込みましたが、持ち前の気合と根性で自分のプレースタイルを取り戻し、チャンスボールを逃すことなく攻撃することができました。セットカウント3-2でなんとか勝利を収めることができました。続く準々決勝戦、葛西工科高校の選手と対戦しました。あえて打たずにツツキ(ボールの下側をこすって下回転をかける守備の技術)で粘るタイプの選手で、最初の段階ではツツキ合いに付き合ってしまう、ポイントを取られてしまう場面もありましたが、試合が進むにつれて自分の卓球を取り戻し、3-0で完勝。決勝戦は優勝候補の田無工科の選手でした。相多選手はこの選手に勝つことを一つの目標としていただけに気合十分で臨みました。調子は悪くなく、自分から仕掛ける展開をしっかりと作りながら得意のラリーに持ち込んでいきましたが、普段よりも一球多く返ってくるボールをつなぐことしかできず、その隙を狙われることで失点してしまいました。最終的には1-3で惜敗し、準優勝という結果になりました。工業大会という重みのある試合の中で、普段の実力以上に力を発揮できたことは、一步先の世界に進むきっかけになったのではないかと思います。

学校対抗の部優勝に加え、シングルスでも入賞者が出たことは大変うれしいことです。今後もより一層精進してまいりますので、応援よろしく願いいたします。

左から

相多 雄仁選手 (機械科1年)

大栗 晴弥選手 (機械科2年)

